

抗癌剤治療の副作用による脱毛の悩みを新規抗酸化剤研究が救う

大分大学提供
作成日 2016年2月24日
更新日



研究者氏名 なかじま けんたろう 中嶋 健太郎	所属機関 大分大学医学部附属病院 消化器外科	関連キーワード(複数可) 乳癌、抗癌剤、脱毛予防、脱毛メカニズム、酸化ストレス、 αリポ酸誘導体、アデランス
主な研究テーマ 抗癌剤治療による脱毛の予防に関する研究		主な採択課題 ・若手研究(B)平成24～26年度(配分総額:4,160千円) 課題名「抗癌剤誘発脱毛に対する抗酸化物質DHL-HisZnNa の有用性の検討」

① 科研費による研究成果

- ・化学療法にはさまざまな副作用が伴うが、特に若い世代の女性に多い乳癌において化学療法による副作用の脱毛は、患者に心理的ダメージを与え、患者が化学療法を拒否する大きな要因ともなり、その予防や治療法の開発は早期に解決すべき課題である。
- ・大分大学では以前より新規抗酸化剤の研究を行ってきたが、抗癌剤治療による脱毛予防に新規抗酸化剤が有効であることを動物実験で明らかにした。
- ・脱毛抑制効果のメカニズム、本治療薬が乳癌以外の抗癌剤による脱毛にも有効であるかを検証するための基礎研究を進行中である。
- ・毛髪関連業界のリーディングカンパニーである(株)アデランスと産学連携にて、抗癌剤脱毛抑制研究、乳癌治療患者を対象とした臨床試験を進行中である。臨床評価は、国内癌専門7施設を対象に多施設共同臨床試験にて行っている。

＜新規抗酸化剤DHLHisZnの背部塗布
を行ったラットの肉眼所見＞

抗癌剤のみを投与したラットと比較し
1%DHLHisZn塗布によって、もっとも強い
脱毛抑制を認めた。



② 当初予想していなかった意外な展開

- ・実際の乳癌治療患者を対象とした臨床試験において、脱毛予防への有効性が報告されている(試験進行中)。
- ・脱毛後に再び生えてくる毛髪が予想外に質が良いことが報告されており、引き続き基礎研究をすすめる予定である。
- ・研究概要と共同研究体制に関して、「癌・炎症と抗酸化研究会」セミナー、及び(株)アデランス ホームページにてメディア向けに公開されている。参考URL
<http://medical.nikkeibp.co.jp/leaf/all/search/cancer/news/201311/533677.html>
<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000113.000010292.html>
<https://prw.kyodonews.jp/opn/release/201311196404/>
- ・本薬剤は、(株)アデランスより、製品化を予定している。

③ 今後期待される波及効果、社会への還元など

- ・抗癌剤治療時の脱毛は患者に心理的苦痛を与え、患者が抗癌剤を拒否する大きな要因ともなり、その予防や治療法の開発は世界中の患者へ大きな福音をもたらす。
- ・本研究の成果は国内外の学会を通じて発信し、多くの患者の髪の毛の悩みの解消に寄与すると期待される。